日本風景街道

伝統守る江戸～明治の街並み

愛宕街道（京都鳥居本）

日本風景街道「愛宕街道（京都鳥居本）」のルートは、京都の代表的観光名所、嵯峨野にある。街道沿いには京の晩夏を彩る「五山の送り火」の一つ鳥居形があり、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定される「嵯峨鳥居本」周辺の日本一短い風景街道だ。ＪＲ嵯峨野駅や京福電鉄嵐山駅、阪急嵐山駅から奥まった愛宕山ろくにある隠れた名所で、観光地の雑踏とは無縁の閑静なたたずまいが独特の雰囲気をかもし出す。

愛宕街道の歴史や町並みを守り、残そうと風景街道の活動を始めたのは「ＮＰＯうるわしのまち・みちづくり」（上村多恵子代表）で、今は地元の今井昌代さんや松山和子さんら「嵯峨野保勝会」のメンバーが引き継ぎ、ＮＰＯとともに「うるわしのみち　愛宕古街道を良くする会」としてルートの案内などに、京都の女性らしいおもてなしを心がける。

愛宕山頂にある愛宕神社は「火伏せの神」として江戸中期から信仰を集め、街道の門前市は参詣客で賑わった。出火がご法度の時代、「伊勢に七度、熊野に三度、愛宕さんへは月参り」と歌い継ぎ、「火廼要慎」（ひのようじん）の火伏札を家に掲げるのは地域の務めだ。

昭和初期に愛宕電気鉄道が嵐山から山ろくの清滝まで開通。愛宕山頂へケーブルカーもできたが、終戦前年に両線とも廃線撤去され、街道は次第にさびれた。開発と無縁だったため、江戸末期から明治期に建てられた街並みが面影を残す。

茅葺屋根の農家や民家、瓦葺屋根で紅殻格子（べんがらごうし）の町家、２階に虫籠窓（むしこまど）やばったり床几（しょうぎ）と呼ばれる独特な構えを設けた町家、茶店、旅館などが美しい自然と溶け合う。

１９７９年重要伝統的建造物群保存地区に指定され、京都市は93年、地区内に明治期の京町家を復元した「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」を開設。その後ＮＰＯが保存館の指定管理者になり、風景街道の活動は「嵯峨野保勝会」が引き継いで、閑静な町並みや地元に伝わる風俗などの価値、魅力、地域の伝統を守る。

建築家や郷土史家を招いての講演会、街道の地域資源探しワークショップ、案内資料や案内道標づくり、景観の障害になる街道脇自販機のデザイン改良提言など、活動は幅広い。

重要なのは８０００基もの石仏・石塔で有名な化野念仏寺（あだしのねんぶつじ）で毎年８月に行われる千灯供養に合わせ、地域ぐるみで取り組む「愛宕古道街道灯し」。近隣の小中高校生や京都嵯峨芸術大生らが大小８００基の手づくり行灯で街道をライトアップし、幻想的情景を現出する。

ＮＰＯ理事の浦尾たか子さんは「愛宕街道の価値や魅力を肌で感じ、誇りに思います。地域の活性化と魅力を発信する拠点として、道の駅開設をという声も高まっています」とたおやかに語った。

伝統行事は子ども達に受け継がれる

愛宕神社一の鳥居付近の愛宕街道

京都市嵯峨鳥居本町並み保存館で打ち合わせする、左から浦尾たか子さん、松山和子さん、今井昌代さん

■第３回「関東優秀活動賞」に４ルート

国土交通省関東地方整備局と管内各都県や商工団体で組織する風景街道関東地方協議会は、創意工夫をこらし地域の魅力発展に優れた活動を行っている団体を顕彰する第３回「関東優秀活動賞」に次の４ルートを選定した。

◇優秀賞（地域活性化への寄与部門）『江戸・東京・みらい街道』（東京都）＝全国の道路起点がある日本橋の特性を生かそうと、若い世代も巻き込んで植栽、ごみポイ捨て防止活動を展開する際、富山県内など７ルートの団体にも呼びかけ、順次合同で推進している。

◇優秀賞（美しい国土景観の形成部門）『浅間ロングトレイル』（群馬県・長野県）＝北国街道沿いのツツジ園やトレイルルートなどの案内看板とマップ作りにあたり、関係各市町村に働きかけて景観に配慮し、統一デザインで現在地がすぐ分かるよう工夫した。

◇優秀賞（観光振興への寄与部門）『東海道風景街道』（神奈川県）＝江戸時代から昭和 20 年まで宿場町保土ヶ谷で続いていた朝市「ごうどいち」を現代風に復活。手づくりチラシなどで地区外からの広域集客も成功させて大盛況とし、毎月開催の定期市に育てた。

◇審査員特別賞『千変万化の筑波山「まち」「さと」周遊ルート』（茨城県）＝旧筑波鉄道の廃線後に整備されたサイクリングロード「つくばりんりんロード」を、地域住民ぐるみの植樹で 100 本の桜並木にしたうえ、重機も使い樹木管理や清掃まで手がけている。

ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。